

子どもへの教育期待に対する教育意識・社会意識の効果

——東大社研パネル調査 (JLPS) データの分析 (2) ——

東京大学

藤原翔

1 目的

親の教育意識や社会意識が子どもへの教育期待にどのような影響を与えるのか、そして親の社会経済的地位変数が子どもへの教育期待に対して持つ効果を親の教育意識や社会意識がどの程度媒介しているのかを明らかにする。教育意識や社会意識を対象とした社会意識研究では、その規定要因が明らかになったものの、その意識がどのような行為と結びつくのかについてはそれほど分析されてこなかった。一方、出身階層と教育・職業達成の関連を分析した社会階層研究については、その格差の実態を示してきたが、何故そのような変数間の関連が生じるのかを直接的に検討したものは少ない。本研究は、親の教育意識や社会意識が子どもへの教育期待に与える影響とそれが親の社会経済的地位の影響をどの程度媒介するのかを明らかにすることで、意識の効果と格差のメカニズムについて検討する。

2 方法

東京大学社会科学研究所が実施した「働き方とライフスタイルの変化に関する全国調査 (JLPS)」データを用いて分析を行う (2007 年時点で 20~40 歳)。分析の対象は、2014 年の調査時点において子どもがいる親である。従属変数は子どもへの教育期待である。独立変数は、子どもレベルの変数としては子どもの性別、年齢、出生順位を用いた。親レベルの変数としては、年齢、本人学歴、本人職業、配偶者学歴、世帯収入、子どもの数を用いた。加えて、教育意識や社会意識を親レベルの変数としてモデルに投入した。用いた教育意識は「子どもにはできるだけ高い教育を受けさせたい」(高学歴志向)、「子どもには、学校教育のほかに家庭教師をつけたり、塾に通わせたい」(学校外教育投資志向)、そして、「どんな学校を出たのかによって、人生がほとんどきまってしまう」(学歴社会観)の3つである。社会意識は、階層帰属意識、生活満足度、日本の社会には希望があるかどうかなど、複数の変数を投入した。分析にはマルチレベルモデルを用いた。

3 結果

男性については高学歴志向と学歴社会観が高いと、また女性については高学歴志向や階層帰属意識が高いと、子どもに対する教育期待が高くなる傾向があることが示された。また、これらの意識を媒介変数とすることで、子どもへの教育期待に対する社会経済的地位変数の効果の一部が説明された。

4 結論

教育意識や社会意識が子どもへの教育期待に影響を与えること、どのような意識が教育期待と結びつくのかについては本人の性別によって異なること、そしてこのような意識が社会経済的地位が子どもへの教育期待に与える効果の一部を説明することが示された。高学歴志向であるか否かだけでなく、男性については学歴社会についての考え方が、女性については自分の社会的位置に対する認識が、社会経済的地位の影響を受けながら、子どもに対する期待の差異に結びついている。

【謝辞】

本研究は、科学研究費補助金基盤研究 (S) (18103003, 22223005) の助成を受けたものである。東京大学社会科学研究所パネル調査の実施にあたっては、社会科学研究所研究資金、株式会社アウトソーシングからの奨学寄付金を受けた。パネル調査データの使用にあたっては社会科学研究所パネル調査企画委員会の許可を受けた。